

大阪 あちこち

●古墳時代を訪ねて～史跡金山古墳公園・寛弘寺古墳公園をめぐる～

河南町内には、300基近い古墳があります。その内いくつかの古墳を整備した古墳公園（府立1か所、町立2か所の計3か所）があります。今回は、その整備された町立の古墳公園を紹介します。

■史跡 金山古墳公園

河南町の最南部に位置する金山古墳は、南北2つの円丘を合わせた形の全国的にも珍しい双円墳で、6世紀末から7世紀初頭、ちょうど前方後円墳が造られなくなったところに築かれたものです。全長は86m、周囲に堀が巡らされています。大きい方の南丘の横穴式石室は未調査ですが、北丘には全長10mの横穴式石室があり内部には2個の家形石棺が置かれています。

平成3年2月15日に国の史跡指定を受け、平成4年度から7年度にかけて古墳公園として整備されました。また、平成18年度には駐車場も完備し見学しやすくなっています。



■寛弘寺古墳公園

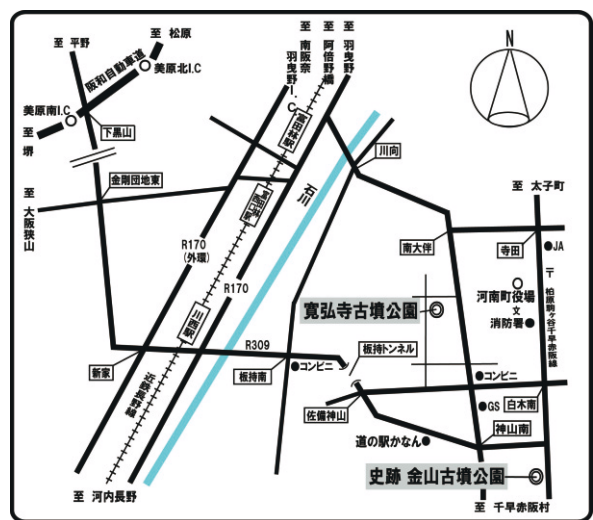
河南町西部の丘陵地にある寛弘寺古墳群は、数基の古墳が知られているだけでしたが、昭和



50年代後半にこの丘陵で農地造成の計画が起こり、造成部分の発掘調査が大阪府教育委員会によって行われました。その結果90基を超える古墳群であることが分かりました。

ほとんどの古墳は調査ののち造成で姿を消しましたが、当初から存在が知られていた数基の古墳は、農村公園として整備することとなり、平成16年6月に河南町寛弘寺古墳公園として公開されました。

寛弘寺古墳群は昭和初期に京都大学の梅原末治氏によって、金山古墳は戦後すぐ京都大学の小林行雄氏によって調査、報告されています。これら2つの考古学史に名を残す古墳（群）をめぐってみませんか。



▼お問い合わせ先▼

河南町教育委員会教育課
南河内郡河南町大字白木1359番地の6
TEL 0721-93-2500